

故郷への思いあふれ

◆ ◆

金沢市出身の俳優塩谷瞬さんが8月、石川を訪れた。12年前に上京して以降、本格的に足を踏み入れることがなかった。心ざとである。「一度は捨てた気持ちで上京したが、今は石川が大切に思える」。不遇の少年期を経て俳優という夢を実現させた塩谷さんは今、「まちづくり」や「都市開発」をテーマに故郷の活性化にかかわりたいとの思いを強くしている。

俳優 塩谷瞬さん



しおや・しゅん 2002年デビュー。05年に井筒和幸監督の映画「パッチギ！」に主演し、日本アカデミー賞新人俳優賞。「象の背中」「ラッシュライフ」など話題作に出演を続け、ドラマ、舞台でも活躍している。金沢市出身、27歳。

子どもに夢持ってほしい

ツールドに参加

15歳で上京
少年時代から自立した生活を余儀なくされ、社会を恨みましたが、同時に手まさしのべてくれる人の優しさにも触れることもできた。

東京で行われたオーディションで賞を取り、15歳で上京。2002年に「忍風戦隊ハリケンジャー」でデビューし、05年には映画「パッチギ！」で主役の座を射止め、日本アカデミー賞新人俳優賞に輝くことになる。

上京後、役者として一つの結果を出したことで、後にしてきた故郷への思いが次第に大きくなっていく。

塩谷さんは8月下旬、石川県内の4日間の滞在で、元の企業や高校、町役場などを精力的に回り、会った人に自分の思いをぶつけた。「街を元気づけたい」。

久しぶりに歩いた金沢の街は、活気が失われたように感じた。「新幹線が通れば、都市は発展するか、衰退するか。自分らの世代が新しい光となって、何か始めなければ」。手探りながら、自分なりに動き始めようと決めた。



内灘町内の競技自転車専門店を訪れた塩谷さん = 8月21日

ひと 彩々

具体的プロジェクトの一つとして、自身やアーティストらを先生役とした「青空教室」を、金沢を皮切りに開催する構想を温めている。一緒に歌ったり、お芝居を見せたり。複雑な環境に育ってきたからこそ、子どもへの思いは人一倍である。「ほろほろだった時代から、夢を追いかけてきたことで今の自分がある。だからこそ、子どもたちにも夢を持ってほしい」

石川で開催される催しにも積極的に参加していくつもりだ。内灘高時代に自転車部に所属していた経験を生かし22日のツール・ド・のと400（北國新聞社など主催）最終日には、参加者とともにペダルを踏む。

あくまで職業は「生涯、映画俳優」と言い切る。ふるさととの12年間の空白を少しずつ埋めながら、俳優としても新たな挑戦を続けていくつもりだ。